

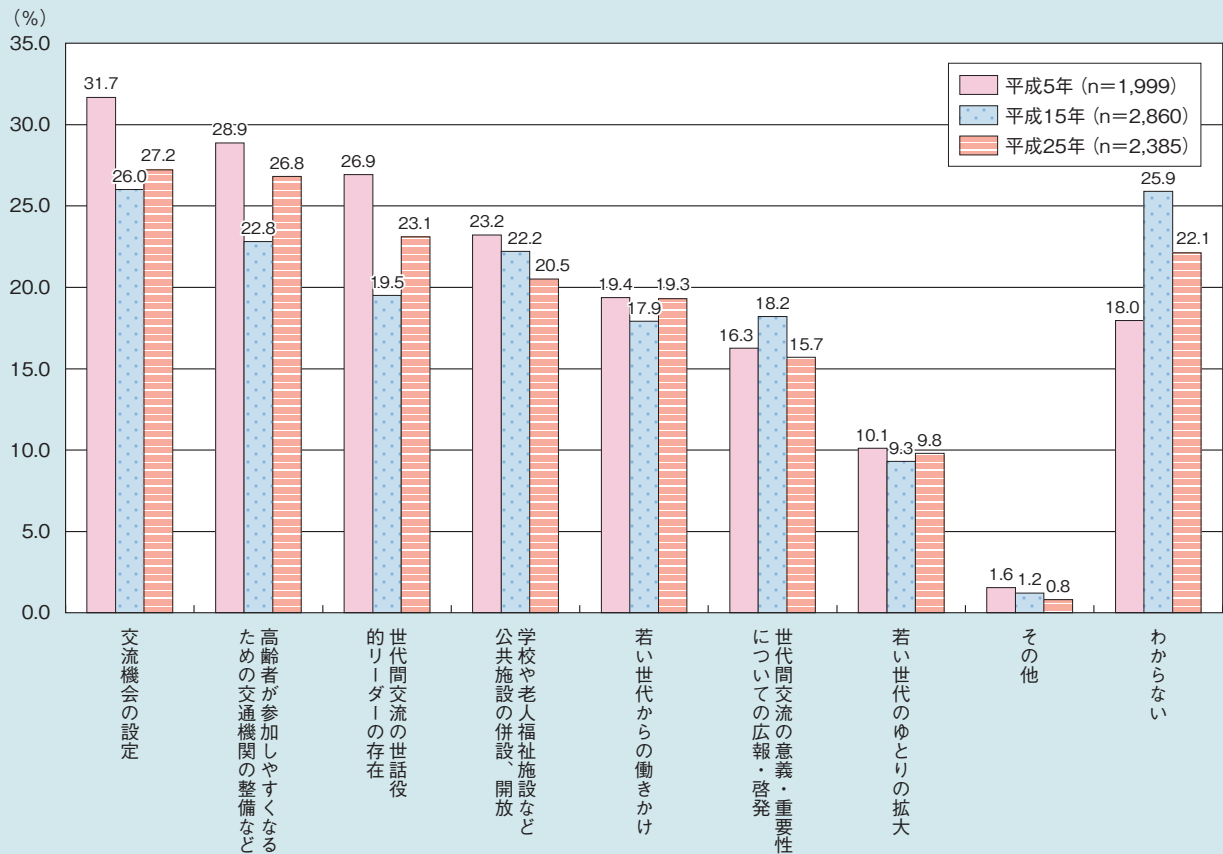
ると、65歳以上高齢者の方が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高く、65歳以上高齢者の事故時の場所をみると、屋内での事故の場合、「居室」45.0%、「階段」18.7%、

「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-6-3）。

(2) 高齢者の居住環境

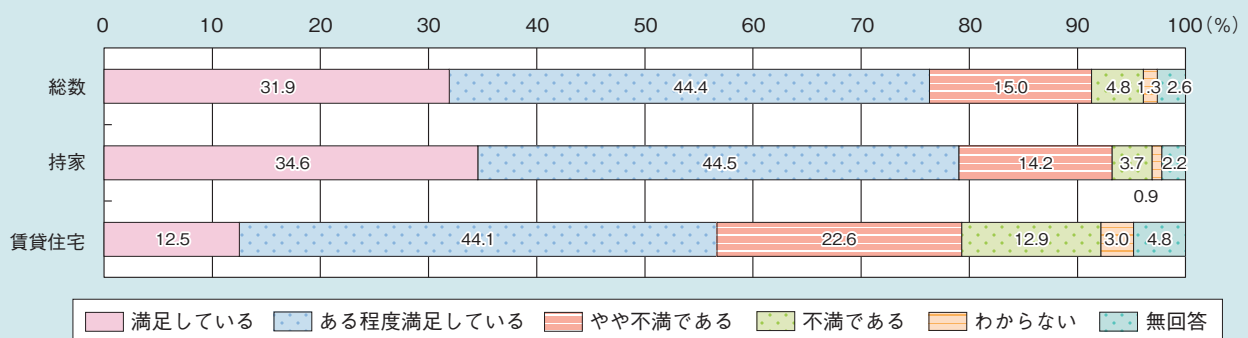
60歳以上の人々が地域で不便に思っているこ

図1-2-5-7 高齢者の世代間交流を促進するために必要なこと



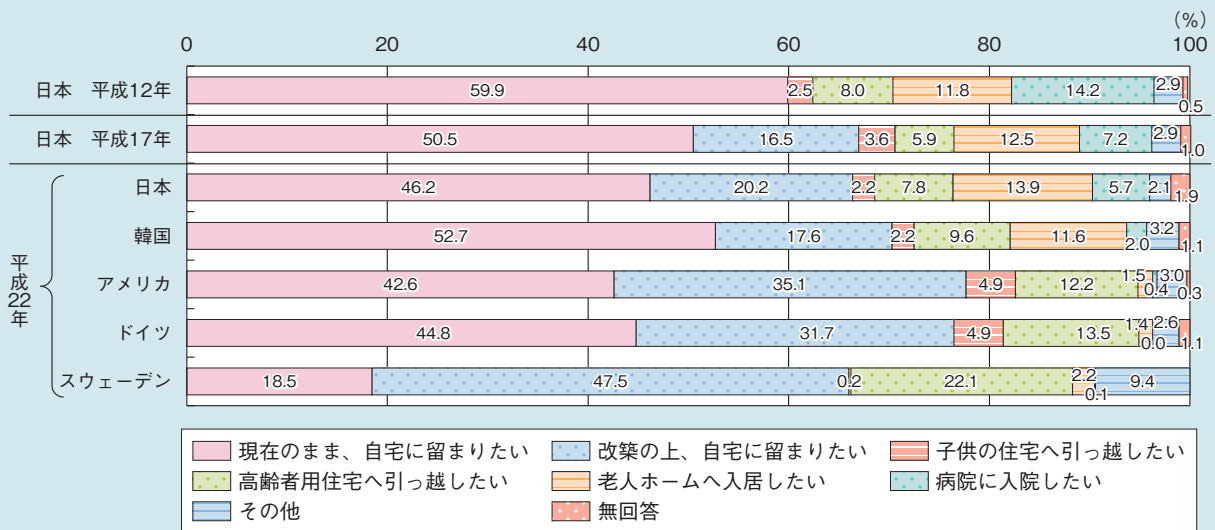
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）  
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

図1-2-6-1 現在の住居に関する満足度



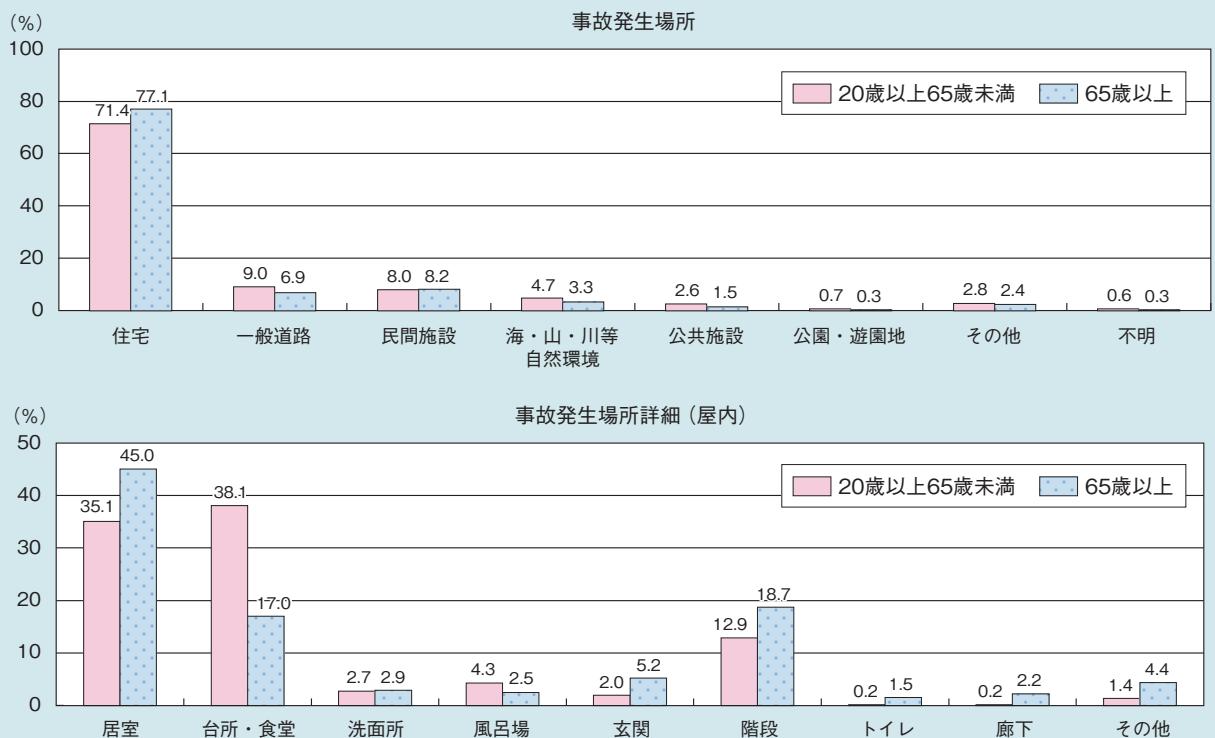
資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）  
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-6-2 虚弱化したときに望む居住形態



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成12年、平成17年、平成22年）  
 (注) 対象は、60歳以上の男女

図1-2-6-3 高齢者の家庭内事故



資料：国民生活センター「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故—高齢者編—」（平成25年3月公表）  
 (注1) 平成22（2010）年12月～平成24（2012）年12月末までの伝送分。  
 (注2) 事故発生場所詳細（屋内）については、不明・無回答を除く。

とをみると、平成22（2010）年では、不便な点が「特にない」という人が約6割（60.3%）であるが、不便に感じている事柄としては、「日常の買い物に不便」（17.1%）が最も多く、次いで「医院や病院への通院に不便」（12.5%）、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」（11.7%）となっている（図1-2-6-4）。

### (3) 高齢者の安全・安心

#### ア 高齢者の交通事故死者数に占める割合が過去最高

65歳以上の高齢者の交通事故死者数をみると、平成26（2014）年は2,193人で、前年から減少に転じたが、交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は53.3%と過去最高となった（図1-2-6-5）。

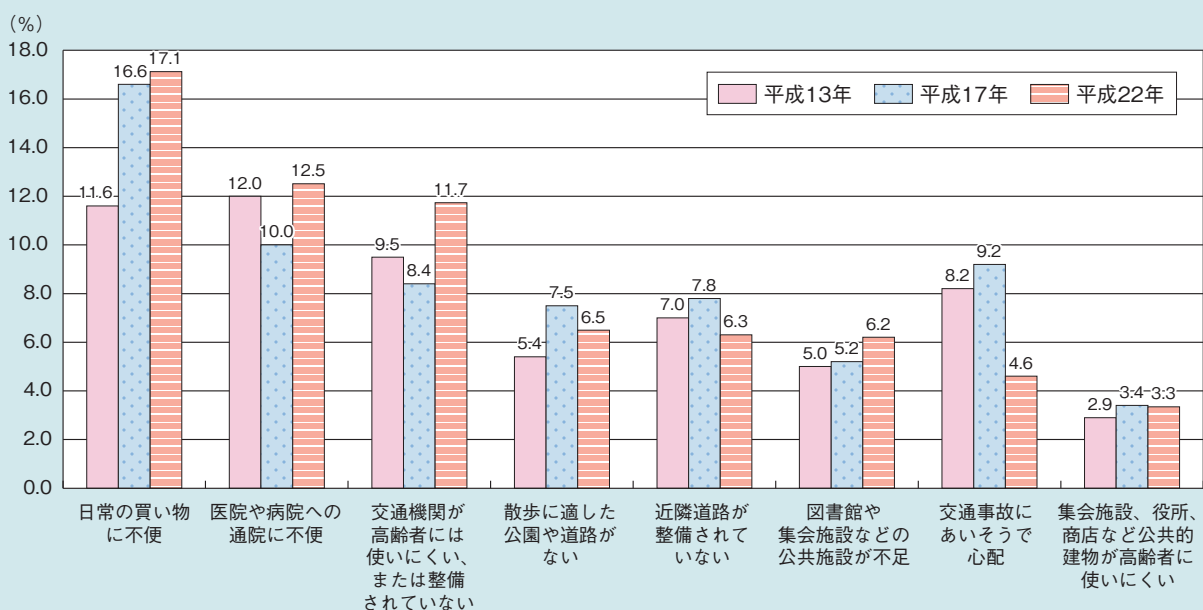
#### イ 高齢者の刑法犯被害認知件数に占める割合は増加傾向

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯被害認知件数でみると、全刑法犯被害認知件数が戦後最多を記録した平成14（2002）年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、高齢者が占める割合は、25（2013）年は12.9%と、増加傾向にある（図1-2-6-6）。

#### ウ 振り込め詐欺の被害者の8割以上が60歳以上

振り込め詐欺（オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺及び還付金等詐欺の総称）のうち、特に高齢者の被害が多いオレオレ詐欺の平成26（2014）年の認知件数は5,557件と前年から微増し、架空請求詐欺は3,180件と前年の2.1倍に増加した。また、振り込め詐欺の被害総額は約380億円であった（表1-2-6-7）。

図1-2-6-4 地域における不便な点（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）  
（注）対象は、全国60歳以上の男女